

編集後記

何といっても北海道での最大の話題は、鈴木 章&根岸英一先生による2010年ノーベル化学賞の受賞です。北海道大学では初の受賞であり、明るい話題を提供してくれました。おめでとうございます。これに触発されて科学に興味を持ち研究者になる若い人がどんどん増えることを期待しています。

一方、政治に目を向けるともう危険ラインまで不支持が広がった菅内閣（今年6月に鳩山内閣から移行）は一体どこに向かっているのでしょうか？尖閣諸島問題，北方領土問題，TPP問題とどう転んでも前に進めない状況が続いており，国民のフラストレーションはつもの一方です。中国船衝突ビデオのユーチューブ流出は，これらの問題をさらに複雑にしています。同情したくなるほど大変な問題を抱えてきています。特別会計の仕分けも始まっていますが，民主党の中でも議論百出であり，一枚岩でないのは政党として問題ありと見られてしまいます。

また，スポーツ界でみると一番の話題は早稲田大学の斎藤佑樹がニッポンハムに入団しそうなことです。こんなに騒がれてニッポンハムに入団する選手は初めてではないでしょうか。10-20年前では入団拒否もあり得たと思いますが，パリーグの人気上昇，巨人の人気低落などによりどの球団でも働きがいが出てきたためでしょう。選手にとっては良いことだと思います。ロッテがパリーグ3位でクライマックスシリーズを勝ち上がり，日本シリーズでも中日を4-2（1引き分け）で下し優勝しました。私の好きなテニスにおいてはなかなかスーパースターが現れません。それでも今年の全日本テニス大会の決勝では，杉田祐一と鈴木貴男が対戦し杉田の圧勝で終わりました。杉田は宮城県出身で小学生のころから知っており，息子らと一緒に練習した仲間なので親近感を覚えます。鈴木とも多少の縁があり，何度かテニスと一緒にさせてもらいました。杉田も鈴木も東北，北海道とテニスには不向きな地域から日本のトップまで上り詰めた選手です。環境も大事ですが本人の努力とやる気が最も大事なんでしょう。スポーツも研究も同じという感じがします。

大学内に目を向けると，寂しいことの方が多気がします。ついに研究費の30%削減案などが提案されてきました。いろいろな削減案を総合すると実質予算は半減になってしまうのではないのでしょうか。全体的に何が問題なのかの議論をしないまま結論ありきで削減案が施行されたら，医療大の研究が大きく低下することを危惧するのは私だけでしょうか。北海道内での医療大の評判は，研究もできて，教育熱心な研究者が多い，ということです。これは長年かけて作り上げてくれた先輩達の功績です。このたいまつを予算削減などで消すことなく後輩研究者に渡したいものです。

北海道医療大学歯学雑誌に目をやれば，今回は総説1編，原著論文3編，トピックス16編が集まりました。大学内の雑誌が低落傾向にあるなかでは頑張っている方と思われます。これも一重に学内外の諸先生のご協力の賜と感謝する次第です。特に今回トピックスに，歯学部2期卒業の廣瀬知二さんが投稿してくれました。学外からの投稿は初めてであり，大変うれしく思っております。同窓生の皆様，これからも面白い話題がございましたら，投稿をお待ちしています。編集委員長である私の任期も残すところ1年で，あと2回の編集で私の役目は終わります。若い編集長を探さないといけません，これが難題です。

平成22年12月24日
編集長 和泉博之

次号（第30巻，第1号）の発行は平成23年3月31日です。

会員各位の投稿原稿募集の締め切りは平成22年9月30日必着と致します。期日厳守の上，ご投稿をお願いします。本誌投稿規定（2010年第29巻，第2号の巻末あるいは歯学部生理学教室のホームページ；<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~physiol/>）をご参照の上，投稿してください。